

報道機関各位

令和2年 年頭所感 「新たな防災」

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は平成から令和への改元の年にあり、町民の皆様がこぞってお祝いと感謝の気持ちを表すことで、南郷上ノ山公園の梓亭の築造や奉祝コンサートのように、形になり、歌声や音色になり、御用邸の町、葉山に住む、みんなの気持ちがつながった年でもありました。また台風15号と19号においても、災害の現場対応や避難所の運営、その後の被災や停電時の支援など、地域の方々が助け合い、お互いのために改めて防災に向き合おうとした年でもありました。

「一つになれる町、葉山」がさらに質を高め、魅力を磨き、安心して住める町となるよう、本年も町役場としても一丸となって全力で働いて参ります。

さて、新年度は「新たな防災」を政策テーマに、主に台風の風水害を考えて、早期に停電に対する防災計画や、ベットとの避難など、避難所運営の見直しを行って参ります。また一方で町村としては初のビックレスキューかながわを10月に開催すべく準備を進めており、関係各機関と大規模被災の想定訓練を町民の方々と一丸となって実施します。

他にも昨年からの取り組みだった、公共施設全体の整備のあり方を議論するための各施設の利用状況や、劣化診断の調査報告がまとまるため、今後のあり方のたたき台を議論する年になります。実際に学校給食センター建設やクリーンセンターの解体は着手しますので、無駄なく、しかし有益な施設となるよう、工事も議論も気を引き締めて向き合って参ります。

また棚田を復元した里山の整備で、自然を活用した魅力創出を町民の方々と共に広げていきます。そして、東京2020オリンピック・パラリンピックの英国セーリングチームのホストタウンとして、また、はやまクリーンプログラムによる環境配慮、ダイバシティの実現を通じて、SDGsの理念のもと、先進的な魅力ある町として、確固たる位置付けを築いて参りたいと思います。

昨年は行政のテーマ「学び合い」の中で様々な情報を収集して参りましたが、本年は個人的には「対話」をテーマに、難しい課題を乗り越える手法の模索や、葉山の価値を上げていくような知恵やアイデアを探していきます。町役場内の全課の職員と懇談の機会を設け、その後はタウンミーティングを重ね、町民の皆様との協働によるまちづくりの実践です。話し合いを諦めなければ決して紛争は起きません。本年も笑顔と愛と信頼を大切に、9年目の町政運営に全力で臨んで参ります。

令和2年 1月 9日
葉山町長 山梨 崇仁